



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

愛知県支部

No. 156

2023. 秋

日赤あいち

- ▶ CLOSE UP
人と人がつながる青少年赤十字の取り組み
- ▶ TOPICS
クロスサポーターに聞く!!
独立行政法人 都市再生機構 (UR)
赤十字奉仕団 ボランティアリレー
愛知県青少年赤十字賛助奉仕団



CLOSE UP

人と人がつながる
青少年赤十字の
取り組み

ボランティアとして活躍する奉仕団がリレー方式で登場



赤十字奉仕団

バトンタッチ!

ボランティア リレー

愛知県青少年赤十字 賛助奉仕団



私たち、愛知県青少年赤十字賛助奉仕団は、昭和45年に発足しました。「青少年赤十字の活動」を支援する奉仕団です。私たちの活動を2つ紹介します。

1 「リーダーシップ・トレーニング・センター」の支援活動

青少年赤十字の活動の一つに「リーダーシップ・トレーニング・センター（トレセン）」があります。この活動は、子どもたちが「リーダーシップの取り方を学ぶこと」を目指しています。トレセンのプログラムには、「赤十字の成り立ち」「ボランティア活動」「防災教育」「救急法」などがあります。



私たちは、これらのプログラムの講師をしたり、先生方のサポートをしたりしています。

この講習を受けた子どもたちが、各学校でリーダーシップを発揮している姿を思い浮かべながら、支援活動を続けています。



2 JRC加盟校での防災教育（出前授業）

JRC (junior・red・cross) の加盟校は、愛知県内に約1,100校あります。その加盟校から「防災教育」の要請を受けると、支部職員と協力して「いえまですごろく」の防災教育を行います。

授業を受けた子どもたちからは、「楽しみながら、災害が起きた時の行動を学ぶことができた」「自分がけがをしていたら人を救えないから、まず自分が助からないといけなことが分かった」などの感想が聞かれます。

子どもたちの防災意識が高まって、その意識を家庭や地域そして、未来へつなげていってくれたらと願って授業を行っています。



活動資金

ご協力 ありがとうございます

日本赤十字社愛知県支部へ活動資金として
多額のご寄付をいただいた法人様

- ▶ アサヒベーカーリー株式会社
- ▶ 株式会社ジョイフル設備
- ▶ トーエ株式会社
- ▶ 株式会社ニシ
- ▶ 丸福産業有限公司
- ▶ 株式会社畑中建築事務所
- ▶ ホッコー株式会社
- ▶ 株式会社フェニックス
- ▶ 医療法人スマイリーバード
- ▶ 株式会社マルエム商会
- ▶ 一般財団法人坂文種報徳会

PRESENT

名古屋グランパス 中谷進之介選手の サイン色紙

日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院を慰問された名古屋グランパスの中谷進之介選手の直筆サイン色紙を、中谷選手の背番号にちなんで4名様にプレゼントします!

Mail : aichi-koho@aichi.jrc.or.jp
Fax : 052-971-1590
郵 送 : 〒461-8561 名古屋市東区白壁 1-50
日本赤十字社愛知支部「日赤あいちプレゼント」係

応募先
①お名前 ②郵便番号・ご住所 ③電話番号
④年齢 ⑤「日赤あいち」の入手先 ⑥ご意見・ご感想など
締切/令和5年12月31日必着



日本赤十字社 愛知県支部
Japanese Red Cross Society



〒461-8561 名古屋市東区白壁 1-50 TEL 052-971-1591 (代表)
発行元/日本赤十字社愛知県支部 発行日/令和5年10月1日

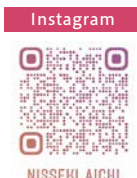


活動の詳細や
最新情報は
ウェブサイトか
SNSへ

日赤あいち

検索

https://www.jrc.or.jp/chapter/aichi/



Instagram
NISSEI.AICHI

Cross Supporter

独立行政法人 都市再生機構 (UR)

中部支社 住宅経営部ウェルフェア推進課長 須藤 弘臣 様

独立行政法人 都市再生機構は、人が輝く都市をめざして、美しく安全で快適なまちをプロデュースすることを使命として活動しています。事業内容の一つとして、経営する団地を地域の資源として活用する地域医療福祉拠点化の取り組みがあり、多様な世代が生き生きと暮らし続けられる住まい・まちの実現を目指した事業展開を行っています。令和4年度からは、地域の健康・安全なコミュニティの追求のため、日本赤十字社本社と包括協定を締結しています。



日本赤十字社愛知県支部とタイアップし様々な活動に取り組む企業、団体、人物を紹介します。

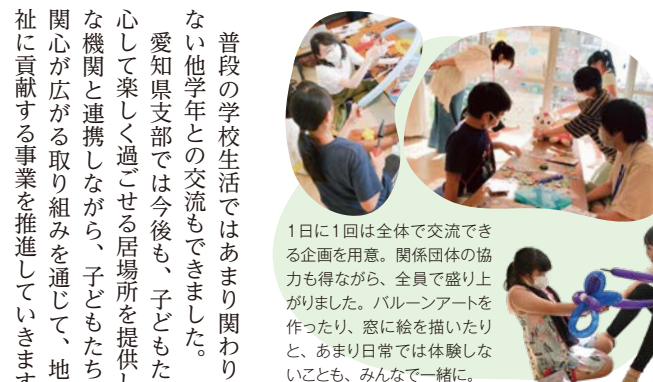
クロス
サポーターに
聞く!!



▼今回のプロジェクト実施のねらいについてお聞かせください。
これまでは高齢者福祉を中心に団地の中の取り組みを行ってききましたが、昨今、子育て世代への支援は社会的な要請であり、社会課題解決のため日赤と協働しました。
▼事業を実施しての感想をお聞かせください。
名古屋市北区・水草団地での実施は好評で、ニーズはあると感じました。特に、保護者からのアンケートで「子どもが安心して過ごせる場所があった」という声を受け、実施して良かったと感じました。子どもたちはその場で「楽しい」と言ってくれますが、こうした保護者の方からの意見も嬉しかったですね。
▼日赤と協働して良かったと思われる点は、何でしょうか。
日赤が持つ地域・行政・企業等とのネットワークはURにはないものだと思います。UR・日赤・協働団体と連携し、事業に広がりを持たせていけたら良いですね。
また、赤十字ボランティアの存在は他の団体にはない強みだと改めて思いました。今回のプロジェクトでも学生ボランティアの協力が本当に心強かったです。
▼今後の展望について
今回は小学生を中心とした支援として行いましたが、今後は中学生等もう少し上の年齢層の子どもに対する取り組みや、保護者の負担軽減につながるようなことが出来たらと思っています。URの団地環境と日赤の人員やノウハウ、ハードとソフトそれぞれの相乗効果で子育て支援につなげていきたいです。



期間を通して、たくさんの子どもたちに来ていただきました! 団地以外に住んでいる方も多く、活気に満ちた事業となりました。



日本総合住生活株式会社の協力で、野外での防災体験も!

○子どもをひとりにさせないために
「夏休み みんなの空き地プロジェクト」
夏休みは、友達と会う機会や、昼食をみんなで食べる機会が減るなど、子どもたちを取り巻く環境が大きく変わります。日本赤十字社愛知支部では今年、UR都市機構中部支社との協働で、夏休み中の子どもたちが安心して過ごすための「子ども居場所作り」事業を試行的に実施しました。
8月に名古屋市中川区のUR水草団地と名古屋市中川区のUR豊成団地で、子どもたちがいつでも来られる「空き地」として団地内の集会所を開放しました。赤十字の学生ボランティアが宿題を手伝ったり、一緒に遊んだりして、みんなで楽しい時間を過ごしました。
「空き地」での過ごし方はそれぞれ。子ども自身に今日やることを決めてもらいます。いつ来て、いつ帰るかも自由です。
学生ボランティアと子どもたち。すぐに打ち解けていました。
昼食はみんなで揃って元気づけ、机の配置や準備も子どもたちが相談して決めました。

入院中の子もたちとサッカー交流

名古屋グランパス 中谷進之介選手による
病院慰問!

名古屋グランパスの中谷進之介選手が、7月25日(火)に日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院の小児病棟へ慰問に訪れました!

名古屋グランパスは日本赤十字社愛知県支部とパートナーシップ協定を結んでおり、今回の慰問は「病氣と闘う子どもたちを少しでも元気づけられたら」という中谷選手の想いから実現したものです。

当日は子どもたちに「がんばって」と声をかけるなどして、乳幼児から中学生まで約30人の患者さんと交流を深めました。

中谷選手、どうもありがとうございました!今後のご活躍を子どもたちと応援しています!



中谷選手と握手をする
佐藤院長

「第14回中村日赤ふれ愛まつり」を
開催します!日本赤十字社愛知医療センター
名古屋第一病院 病院祭のご案内

11月25日(土)午前10時から午後3時まで、当院を会場に「第14回中村日赤ふれ愛まつり」を開催します。例年、近隣にお住まいの方々を始め多数の皆様にお越しいただいておりますが、今年も特設ステージでのクイズ大会やコンサート、当院スタッフによる健康チェックコーナー、さらに緊急車両や災害救護用資機材の展示などを予定し、大人も子どももお楽しみいただけるコンテンツで皆様をお待ちしております。

入場は無料、雨天決行です。ぜひ、皆様お誘い合わせのうえご来場ください。



水上安全法短期講習の開催

水の事故から身を守る方法を学ぼう!

この夏も、水の事故を防ぐための水上安全法短期講習を県内各地で開催しました。学校からの着衣泳講習の依頼を受け、赤十字水上安全法指導員を派遣したほか、春日井市温水プールとの共催で6月17日(土)・18日(日)に着衣泳講習を実施するなど、水に触れる機会が増える夏休み前に正しい知識の普及に努めました。

また、海での水の事故予防を親子で学ぶ「赤十字親子レスキュー」を7月28日(金)に吉良ワイキキビーチ(西尾市)で、31日(月)に常滑りんくうビーチ(常滑市)でそれぞれ開催しました。合計55組133名の親子に、いざという時に自分の身を守る方法を学んでいただきました。



春日井市温水プール



吉良ワイキキビーチ

日本赤十字豊田看護大学
入試情報

赤十字の看護大学で学んでみませんか?

日本赤十字豊田看護大学は、赤十字の理念を基盤にあらゆる場所や場面で活躍できる看護師を育成している中部圏で唯一の赤十字大学です。増えつつある災害に対応できるよう災害看護学や世界で活躍する看護師の育成に力を入れ、とくに、赤十字病院をはじめとした多様で充実した実習先を用意しています。

推薦選抜の出願は11月1日(水)から! 133年という長い歴史の中で培われた確かな教育力をもつ赤十字の看護大学でお待ちしております!



2024年度 入試情報(2024年4月入学)		
注:入試科目や出願期間等、詳細は本学ホームページをご覧ください。		
試験名	試験日	合格発表日
赤十字特別推薦選抜		
高等学校長推薦選抜	11/25(土)	12/1(金)
社会人特別選抜		
大学独自選抜	1/27(土)	2/2(金)
大学入学共通テスト利用選抜(前期A・B)	個別試験なし	2/9(金)
大学入学共通テスト利用選抜(後期)	3/5(火)	3/8(金)
大学入学共通テスト利用選抜(看護大学連携併願選抜)※	個別試験なし	3/4(月)

※1回の出願で全国の赤十字看護大学(6大学7学部)に同時併願可能な選抜試験を開始!

子ども新聞は8月末に完成し、東海3県の朝日新聞購読者及び愛知県・岐阜県内JRC加盟小学校へ配付されました。



日東工業

感震ブレーカーについて説明を受け、発災後の電力復旧に伴う通電火災のリスクについて学びました。また、あわせて長久手市役所職員の方からも市の防災施策についてお話を伺いました。

6月25日(日)

浜松市役所
▼
日東工業



浜松市役所

危機管理課職員の方から、浜松市沿岸域防潮堤の建設に至るまでの工夫や苦労、市民を守るための思いについて伺いました。

一条工務店

安心・安全な家づくりを目指す取り組みを取材しました。船のように水に浮く耐水害住宅の開発エピソードを聞いたり、制震住宅・免震住宅の揺れの違いを体験したりしました。



振り返り

取材メモをもとに、事実や思ったことを付箋に書き出し、気づきを共有するとともに、記事にする内容を確認しました。



6月24日(土)

静岡県地震防災センター
▼
一条工務店
▼
浜松市沿岸域防潮堤



静岡県地震防災センター

カラフルで視覚的に分かりやすい展示を通じて、地震が発生した際に想定される津波被害の状況や、災害時の備えと行動について学びました。

愛知県赤十字有功会
浴衣着付け体験

ロッジステイ

美浜自然の家にて宿泊研修を行い、日本人メンバーからの学校紹介や地域の特色を聞き、モンゴルと日本の学校の違いについて知ることができました。



ウェルカムパーティー

日本の青少年赤十字メンバーと交流しました。モンゴルメンバーは楽器演奏やダンスを披露し、日本メンバーはお手玉やけん玉等の日本の遊びを紹介し、お互いの文化を紹介し合いながら親睦を深めました。



名古屋市立稲西小学校訪問

6年生と、自己紹介すごろくや折り紙、お絵かきリレーなど、英語でコミュニケーションをとって、笑顔あふれる楽しい時間を過ごしました。学校給食も体験し、おいしくいただきました。全校集会では、〇×クイズをして、日本とモンゴルの文化や風習について、学び合いました。

01 子ども新聞プロジェクト

東日本大震災をきっかけとして朝日新聞社と協働で開始した本プロジェクトは2012年から始まり今年で10回目になります。「過去の震災から学んだ教訓を防災・復興につなげよう」を目的に、子どもたちが取材をした後に実際の新聞を作り、加盟校へ配付することで防災教育の教材として活用されています。

今年度は愛知・岐阜の小学5・6年生が子ども記者として、関西大学の奥村与志弘教授の指導のもとで、愛知・静岡にある防災に関する施設や企業を取材して新聞記事を作成しました。

02 モンゴル赤十字社との国際交流

青少年赤十字の実践目標の一つ「国際理解・親善」に基づき、平成19年からモンゴル赤十字社と国際交流活動を行ってこいで、海外赤十字社のメンバーや指導者と交流を行うことで、赤十字の諸活動及び青少年赤十字事業についての理解を深め、国際親善と青少年赤十字活動の推進を図ります。

今年度は7月12日・7月19日にモンゴル青少年赤十字メンバー7名とモンゴル赤十字社職員1名が来日し、日本の青少年赤十字メンバーと交流を深めました。

引率からは、レクリエーションなどを通して次第に打ち解け、笑顔あふれる子どもたちから元気をもらったとの声がありました。

03 リーダーシップ・トレーニング・センター(トレセン)

青少年赤十字とは?

児童・生徒が赤十字の精神に基づき、いのちと健康大切に、地域社会や世界のために奉仕し、世界の人人々の友好親善の精神を育成することを目的として、さまざまな活動を学校教育の中で展開しています。



ボランティア・サービス(V・S)とは?

他の人が何を必要としているのかに気づき、そのためには自分は何をすればよいのかを考え、自ら進んで実行する、いわば、「人道」を日常生活に実践していく生き方を学ぶための方法です。

高校生を対象とした2泊3日のトレセン。今年度は県内の高校1・2年生の22名が参加し、フィールド・ワークやグループワークなどを通してリーダーシップを養いました。



岡崎市赤十字奉仕団による炊き出し体験

フィールド・ワーク

6~7人のグループに分かれて、ゴールを目指しました。途中の関所(チェックポイント)では、学習の振り返りなどの課題が出されます。メンバー全員で協力して解くことで、結束力を深めました。

小・中学生を対象とした1泊2日のトレセン。今年度は小学6年生~中学2年生の29名が参加し、グループワークなどの様々なプログラムを通してリーダーシップの取り方を学びました。



夜のついでに

災害時シミュレーション

避難する際に持っていくものは人によって異なるため、自分だったら何をもって避難するか考え、グループで意見を出し合いました。事前準備の重要性和、準備ができない場合は、いのちを守ることを最優先に避難することが重要であることを学びました。